

坂倉準三設計の旧上野市庁舎に関する資料について

[資料紹介]

齋藤 菜那*

Materials Concerning the Former Ueno City Hall Designed by SAKAKURA Junzo

SAITO Nana

This report details the accession process and current organization status of drawings and sketches related to the former Ueno City Hall, designed by SAKAKURA Junzo, which were transferred to National Archives of Modern Architecture, Agency for Cultural Affairs in 2024. These items, which were personally held by the design supervisor, Mr. YOSHIKAWA Tadanobu, total 135, including elevation drawings, floor plans, and design revision drawings. They include valuable information illustrating the design review process. The item list has now been completed. Moving forward to publishing the list and digitizing of the materials to facilitate research and study combined with existing documents.

キーワード：坂倉準三、文化庁国立近現代建築資料館、建築資料、資料整理
SAKAKURA Junzo, NAMA, archival items, archiving materials

1. はじめに

本報告は、令和6年に文化庁国立近現代建築資料館 National Archives of Modern Architecture, Agency for Cultural Affairs [NAMA] (以下、NAMA) に輸送された坂倉準三建築研究所設計の旧上野市庁舎 (伊賀市指定文化財。以下、上野市庁舎) に関する資料について、整理状況と資料の概要を紹介するものである。

1964年に竣工した上野市庁舎は、坂倉準三 (1901～1969) による上野市全体計画 (上野市中心部の公共建築群) の一環であり、新庁舎へ機能が移転する2019年まで庁舎として使用されていた。現在は、宿泊施設・図書館・カフェ等を併設した複合施設「旧上野市庁舎 SAKAKURA BASE」(MARU。architecture 設計) への改修計画が進んでいる。

NAMA 所蔵の坂倉準三建築設計資料群は、1A：東京事務所資料、1B：大阪事務所資料、1C：坂倉準三個人資料、1D：OB・他組織所蔵資料の4種類の出所のサブフォンドから編成される。本資料は、ヒアリング調査からは大阪事務所で作成されたものと考えられるが、設計担当者が退所時に持ち帰り、その後個人保管されていた経緯を踏まえ、整理上は1D：OB・他組織所蔵資料に位置付けることが妥当であると判断した。

2. 資料の受け入れについて

本資料は、上野市庁舎の設計担当者の一人であった坂倉準三建築研究所の元所員である好川忠延氏 (以下、好川氏) より借用した資料であり、現在は NAMA にお

いて整理作業を進めている段階にある。資料は、作成時から好川氏が退所するまで事務所のデスクに仕舞われており、退所時に処分することなく、自宅に持ち帰り保管されていたものである。

令和6年6月に NAMA 職員2名が大阪事務所を訪問し、資料の来歴についてのヒアリング、借用契約の締結、資料の受け取りを行った。なお、資料については令和5年12月頃に好川氏自宅から大阪事務所宛てに送付されていた。大阪事務所にて、3束の資料をそれぞれうす紙で包み、緩衝材とともに筒箱に収納し、巻きの両端が傷まないよう横向きの状態を保って輸送を行った。

3. 資料整理の手法と経過報告

長期間巻いた状態で保管されたことから、まず、資料の巻き癖を取るためのフラットニングを行った。1束を1ファイルとし、資料が混同しないよう、1ファイルずつ広げてアーカイバルボードに挟んだ。なお、破れや裂けが見られる資料には、保護のため前後にうす紙を挿入した。3ファイルのアーカイバルボードを重ね、その上に重石 (9kg の漬物石を6個) を乗せた状態で半年間静置した。その後、巻き癖が十分弱まったことを確認し、資料1枚ずつへの採番と採録を行った。これにより、表1のとおり、ファイルごとの主な採録項目及び図面印が記載されていた枚数が明らかになった。

*文化庁国立近現代建築資料館 研究補佐員、修士 (文化財)

表1 ファイル別主要採録項目および図面印記載枚数

ファイル番号	1D-5-1	1D-5-2	1D-5-3	合計
資料枚数	46	56	33	135
プロジェクト名	0	28	5	33
資料名称	0	36	5	41
縮尺	0	16	1	17
図面印	0	17	3	20
日付	30	33	25	88

4. 資料の形態と内容

設計担当者による図面およびスケッチであり、複数枚を丸めて3束にまとめたものである。それぞれの束は、①複数案の立面スケッチ②図面（一部図面印有り）及びスケッチ③図面（設計変更図の図面印有り）及びスケッチを中心とした内容である。

全体のうち88枚（表1参照）の資料に日付が記載されていた。主に、右上（インクで書かれた年月日もしくは年月日）と図面印内（鉛筆で書かれた年月日）に記載されており、資料の重なり順とは一致しないことから、資料の重なり順は時系列以外の影響が大きいといえる。

資料の状態は、目立った経年変化がないものから、大小の破れ・欠損・変色があるもの、全体に波打ちが見られるもの（写真1）、欠損箇所が図面情報に及ぶもの（写真2）等、痛みの範囲や度合いが様々な状態であった。

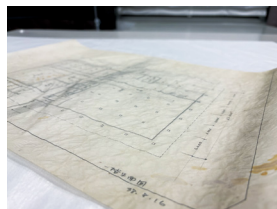


写真1 図面全体の波打ち



写真2 図面情報の欠損

5. 今後の資料整理について

現時点では、総量及び概要を把握するための目録作成を行った段階である。本資料には検討段階の情報が多く含まれており、NAMA所蔵の上野市庁舎に関する資料（表2）ではほとんど見られなかった内容である。特に、図1・2のような複数案の立面スケッチは、立面図（図3）との対照により、設計過程を具体的に明らかにする資料となり得るだろう。

今後は、閲覧および研究利用に資するため、データベース公開に向けた目録の精査と、閲覧対応のための速やかなデジタル化を計画的に進めることが重要である。

（2026年2月19日原稿受理）

表2 坂倉準三建築設計資料の上野市庁舎に関する資料

資料番号	種別	数量
1A-1-1-48	図面	1
1B-1-1-38	図面	256
1A-205	写真	一式
1A-229	写真	一式
1A-229-6	写真	一式
1B-404-5	写真	一式
198-2-2	アパチャーカード	一式
1A-194-4-2	写真、スライド	一式
1A-198-25	写真	一式
1B-391	青焼き図面	一式

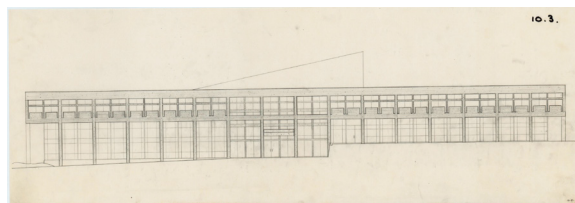


図1 1D-5-1-1

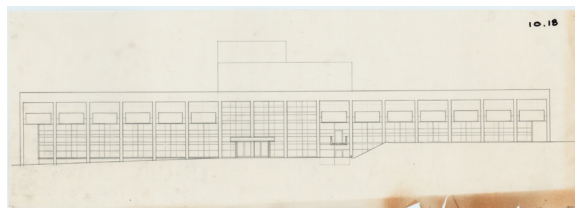


図2 1D-5-1-31



図3 立面図 | 1:100 | 鉛筆、トレーシングペーパー